

ニュースレター 「かけはし」

春の桜を待つ 第2号 2012年3月発行



こんにちは、自動盤専門商社の(株)鈴喜でございます。

前回の1月号を送らせていただいた後、お読みいただきました方々から、応援のメッセージ等も頂戴出来、とてもありがたかったです。今回も空き時間にお付き合いいただけましたら幸いです。

★★最近の出来事★★

先日、お客様よりご依頼あった中古のSV-32Jの動作確認に宮城県に出張して来ました。震災から一年経過した仙台駅前も、以前、スター精密時代に営業で廻っていたころと同じ様な活気を取り戻しておりました。

中古機械屋さんの車に乗せていただき、現地に向かう道すがら、仙台市内には仮設住宅があり、均等に並べられた7層住宅には洗濯物がはためいておりました。

中古機械屋さんの事務所兼倉庫も沿岸部にあったため、津波に襲われ在庫機械は水没、事務用品も水に流され、一時期は大変な事になったそうです。

「今もこうして元気で仕事を続けられるだけでも私たちは幸せなんですわ」と謙虚に語られた様子がとても印象に残り、また東北の方々の復興に立ち向かう芯の強さを垣間見た気がしました。

出張の目的である現地での機械の動作確認も夕方には終わり、大きな問題は無く、不具合箇所は納入後に対応が可能である事が明確となり、正式に商談がまとまり「ほっと」しました。

雪の降り始めた帰りの車中で、東北の一日も早い復興を願いながら帰路につきました。

★★花粉症について★★

花粉症の症状を和らげる方法の一つとして「鼻うがい」がお勧めです。

最初は痛いのですが回数を繰り返すうちにスッキリしてきます

あまりにも痛い方は「鼻うがい」の水に少し塩を足すとある程度痛みを抑える事が出来ます。

やりすぎは鼻の粘膜を傷つける恐れがありますので程ほどでお願い致します。



※裏面もあります

自動盤で使う切削油のお話です。(第2回目)



今回は油性の切削油を構成する成分についてお話させていただきます。

大きく分けると成分は3種類、ベース油・極圧添加剤・酸化防止剤、加工する内容によって、それぞれの配分に考慮する事が基本になります。

更にこの3種類が細かく分かれ、えらい面倒な事になって来ます、でもこの細かな配分により切削性が断然変わってきてしまうので深いんですね。

各切削油メーカーさんはこの配分を日々研究されております。

いわゆる“秘伝のタレ”ですな、タレのレシピがあれば誰でも倉庫で作る事は出来るので極圧添加剤等の配合成分は普通教えてくれません。ますます聞きたくないです！

しかしこの秘伝のタレも万人に好かれる味ではありません。

それぞれの自動盤屋さんの被削材の材種・加工条件によって違って来ますのであちらではいいが、こちらではダメだよとなる事がよくあります。

ステン、チタン、インコなんでも来ーい！ 万能の切削油が出来れば「ノーベル賞がもらえる！」とされているのは、奥が深く皆さん日々研究や努力をされているからなんですね。

ベース油(鉱物油)の代表選手2名には次の様な特徴があります



① ナフテン系・植物性(原産国:アメリカ)

熱に弱い、良く溶ける、流動性が低い、添加剤が良く混ざる、価格が高い

② パラフィン系・動物性フランクトン(原産国:中東)

熱に強い、溶けにくい、流動性が高い、添加物が混ざりにくい、価格が安い



これ以外には、合成油・脂肪酸もありますが、現在は殆どがナフテン系・パラフィン系の2種類になっております。

この2種類は単体では使わず混合して使います。各油メーカー・油種により混合比率が違い、うちの油は安いんですよー！という歌い文句の油屋さん、時々いますよね。

この様な切削油はパラフィン系の比率が高いと言われております。

次回は極圧添加剤・酸化防止剤についてご説明させていただきます。

ご興味を持っていただければ幸いです！

発行者：(株)鈴喜 鈴木佳之

〒344-0116 埼玉県春日部市大倉 496-139

TEL 048-797-8801 E-mail: yoshiyuki@suzukipc.jp

FAX 048-797-8802 ブログ: <http://ameblo.jp/jidousenban/>

携帯 080-1611-1192 (24H 営業中)

